

あぐりすと

このコーナーでは、地域の農を担う、情熱ある農業者をご紹介します。

会社勤めで味わえない楽しさ

ないことがあり楽しい」と笑顔を見せます。

又、農家をしていると日々作業があるため、なかなかいく事が出来ないが旅行をしたり、将来の日本の農業を支える若い農業者を中心に組織されている4Hクラブ「こいこいクラブ」へ参加し、農業の悩みを共有してストレスを発散させていると話します。

それでも、農業を続けてこれた理由は、「農業をしていることで様々な場面で地域の方や若手農家の方とふれ合う機会が増え、分からないことを聞く事ができること」だと語りました。作物を作っていると毎年同じことをしていても出来の良い年や悪い年があり変化があること、やろうと思えばいろいろなことに縛られず、さまざまな事にチャレンジできると話し「会社勤めでは味わうことが出来ない」と語りました。

片貝山屋の高野譲さん(33)は、委託も含め水稲20畝、スイカ等の園芸畑20アールに家族で取り組む専業農家です。高校を卒業後4年間一般企業に勤務したのち、祖父が亡くなったこと・委託を受けて作付け面積が増えてきたことなどをきっかけに、退職し就農しました。

就農する前は、「学校を卒業して会社勤めをしている間は、時折手伝いをするくらいでほとんど農業について関心が無かった」と話します。

就農してみても大変だったことは「とにかく分からないことだらけで、何からしていいか分からない。会社勤めだった時のように何時から何時まで仕事をしたら終わりではなく、その日の

ファイルNo.4

片貝山屋 高野 譲さん



▲田植に向けて苗をハウスに並べる高野さん